

〔日本紀略桓武〕延曆十六年七月乙酉賜陰陽允大津海成純五匹布十端以占卜有驗也。

〔古事談亭宅諸道〕花山院在位御時令病頭風給有雨氣之時ハ殊發動爲方ヲ不知給種々醫療更無

驗云々爰晴明朝臣申云前生ハ无止行者ニテ御坐ケリ於大峯某宿入滅答前生之行徳雖生天子之身前生之體骸巖介ニ落ハサマリテ候カ雨氣ニハ巖フトル物ニテツメ候之間今生如此令痛

給也仍於御療治者不可叶御首ヲ取出テ被置廣所者定令平愈給歟トテシカクノ谷底ニトヲシヘテ遣人被見之處申狀無相違被取出首後御頭風永平愈給云々

〔台記〕久安四年七月十九日甲辰感神院火災時密令泰親占吉凶占云六月壬癸日可有内裏燒亡者此六月廿六日壬子果有内裏火事可謂希有事凡泰親占勝其兄父者也又仰云陰陽書云占十而中七爲神泰親之占十之七八中又其中不似他人不耻上古事也

〔續古事談五諸道〕祇園ノ社燒失ノ御時四年久安ウラヲコナハルニ陰陽師泰親ウラナヒ申テ云ク

六月壬癸日内裏燒亡アルベシ六月廿六日壬子土御門内裏ヤケニケリ希有ノ事ト人イヒケリ本文ニ云クウラハ十ニシテ七アタルヲ神トス泰親ガウラハ七アタル上古ニハヂズトゾ鳥羽院仰ラレケル

〔古今著聞集七術道〕後鳥羽院御熊野詣有けるに陰陽頭在繼を召供せられけるに毎日御所作に千手經を被遊ける件の御經を御經箱に入られたりけるを取出されけるにその御經見へずいかにもとむれ共なかりければ在繼をめしてうらなはせられけるにいかにもうせざるよしを申て猶よくもとめらるべしあやまりていまだ箱の内に候ものをと申けり其後又もとめられければ御經箱のふたに軸つまりてつきたりけるをえ見ざりけり叡感ありて御衣を給はせけるとなん

〔源平盛衰記四〕盲卜事